

令和3年度 「豊西グローバルサイエンスプログラム」の報告

日時：令和4年3月11日（金）、12日（土）

訪問先：名古屋大学 有機化学研究室（伊丹健一郎教授）

TMUK(Toyota Motor manufacturing UK)（オンライン）

例年行っていたイギリス海外研修は、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となりました。そこで今年度は「豊西グローバルサイエンスプログラム」と銘打った国際交流の企画を実施しました。

このプログラムでは、本校創立80周年記念講演で講師をされた伊丹健一郎教授の国際感覚あふれる研究室を見学しました。また、TMUKとのオンライン交流を実施しました。

名古屋大学・伊丹教授の研究室では、設備の見学、生徒の研究発表、教員・学生との懇談を行いました。予想をはるかに超えるスケールの研究室や学生が使用する実験設備の充実ぶりに生徒は大変驚いていました。

生徒の研究発表では、「人工降雨が環境に与える影響」、「血栓症の発症条件」について英語で発表を行い、教授・学生の方々と質疑応答を行いました。教授・学生との懇談では、研究内容や、高校生の時に学んでおくべきことなどについてアドバイスをいただきました。

その後宿泊先へ移動し、18時30分からオンラインでTMUKと交流しました（現地時間午前9時30分）。TMUKからの概要説明、生徒の研究発表、イギリス人技術者及び日本人スタッフとの懇談を行いました。

TMUKからの概要説明及びイギリス人技術者との交流では、慣れないオンラインでの環境に加え、海外の方とのコミュニケーションに苦戦するものの、必死にコミュニケーションをとろうとする生徒の姿が印象的でした。

また、生徒の研究発表では、イギリス人技術者の方々を目の前に「ミニカーにおける自動運転プログラムの考察」、「輪ゴムの劣化条件に関する研究」について英語で発表を行いました。日本人スタッフとの懇談では、海外で働くうえでどんな苦労があるか、どのような資質が必要であるか、など興味深いお話を聞くことが出来ました。

「複合分野を同じ場所で研究をしており、そこで思いもよらない成果が生まれると知り、とても興味深かった」

「海外で働くうえで、相手の文化を尊重することが大事だと分かり、英語でのコミュニケーションの重要性を痛感した」

という生徒の感想から、生徒は科学技術への興味・関心を高め、国際的な職業観を身に付けられたことが分かりました。また、実際に大学に行き、研究者の姿を見ることで、進路選択に幅が広がり、学習意欲がより高まったという生徒が多く見られました。

